

## 加藤 孝太 氏の学位審査結果の要旨

主査： 葛 幸治

副査： 上野 博夫、 権 雅憲

膵臓の慢性炎症性疾患は両者の発症機序から大きく慢性膵炎（CP）と自己免疫性膵炎（AIP）に分けることが可能であるが、両者は組織学的に膵において激しい炎症が生じている。臨床的に CP では疼痛を訴える率が高いが、AIP では疼痛を訴える率は少ない。今回申請者は、両疾患の疼痛症状の相違に着目して、それぞれの膵内神経の免疫組織化学的検討を行った。

神経線維を同定する PGP9.5 の染色では、CP では小葉内および小葉間に神経線維の増生がみられた一方で、AIP では神経線維の数はやや増加していたが、径の増大はみられなかった。神経突起の伸長に関与する NGF は CP、AIP それぞれにおいて膵管上皮細胞に陽性であった。一方、NGF 受容体の一つである TrkA は CP では増生した神経線維に陽性であったが、AIP では陰性であった。この様に CP と AIP との膵内神経増生の差異は、NGF/TrkA-経路の相違によるものと考察される。本研究は CP と AIP の疼痛機序の違いを免疫組織学的に初めて明らかにした研究で有り学位に値すると考える。